

算数教室だより

NO. 11
2月

2010. 2. 12



吹田市立北山田小学校
少人数担当：塩澤

なりま

立春を迎え、春の気配も日に日に色濃くなりましたが、少しでも温かい場所を探し当てる猫のように、窓際のぼかぼかのスペースに引き寄せられていきます。小学生の頃、担任の先生に「何でこんなに寒いのか？」と聞いたところ、その先生が一言「冬だから。」身近な大人に、強引にねじ伏せられた不合理さを感じつつも、確かにその言葉以上に説得力のある答えはありそうもなく、それで引き下がった記憶があります。それ以来、その質問と答えがセットになって、記憶の奥にすり込まれています。寒い朝、思わず「めっちゃ寒いなあ。何でこんなに寒いねん。」と自問、すかさず「冬だから。」と自答。終了。きっと、理科系には向いていないのではないか……。そういえば、私の小学校時代の冬の体育の授業は、“スケート”でした。



今、やっている学習・これから学習

3年

「三角形と正三角形」「2けたをかけるかけ算」

新学習指導要領への移行で、新しく3年生で学習するようになった単元です。今まで4年生で学習していたものが、3年生に下りてきた内容です。基本図形である三角形を、辺の長さに着目して仲間分けをしながら、二等辺三角形・正三角形を見つける力をつけます。また、コンパスを使って三角形を作図することもできるようにします。かけ算では、九九の確実な定着が不可欠です。まだ自信がついていない人や覚えがあやしい人は、3年生の内に必ずマスターしておきましょう。

4年

「小数のかけ算・わり算」「直方体と立方体」

新学習指導要領への移行で、新しく4年生で学習するようになった単元です。今まで5年生で学習していたものが、4年生に下りてきた内容です。4年生は、今年1学期に小数の学習をして、簡単なたし算とひき算を練習しました。3学期の学習では、小数×整数、小数÷整数を学習します。直方体と立方体の単元も同じく移行してきた内容ですが、今まで6年生で学習していたものが4年生に下りてきているので、指導する側にも少々戸惑いがありますが、具体物を用いて立体に触れながら分かりやすく指導していきたいと思えます。2学期に平面上垂直・平行を学習していますが、3学期は立体上でも垂直・平行を捉える力をつけます。面・辺・頂点といった図形の基礎事項はもちろん、展開図や見取り図といった空間認識の感覚を養うことが大切です。



5年

「割合と百分率」「円周と円の面積」

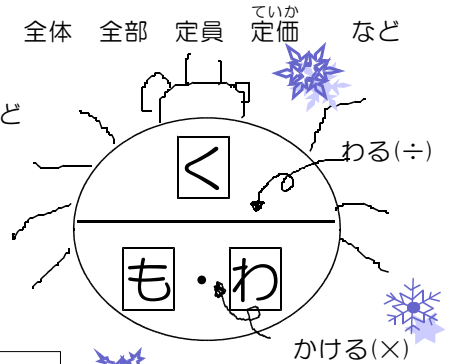
やはり、割合の問題には苦戦しています。割合の学習は、『くもわ虫』を使って読み解く方法を指導しています。

☐(もとにする量)・・・○の何% ○を1とする ○をもとにする 全体 全部 定員 定価 など
 □(比べる量)・・・割合が示すもの 部分 など
 ㊦(詔)・・・倍 小数 分数 % ○割 など

$$\frac{\text{比べる量}}{\text{もとにする量}} = \text{割合}$$

$$\frac{\text{比べる量}}{\text{割合}} = \text{もとにする量}$$

$$\text{もとにする量} \times \text{割合} = \text{比べる量}$$



☆もとを見つけるキーワード

「**わの前ののの前!**」

円周と円の面積の学習では、「円周率」というものが登場します。「率」がつくと言うことは……。そうです。これも割合の一つです。何をもとにした何の割合かも含めて、円周や円の面積を求める公式を確実に使えて、さらに応用問題まで学習していきます。

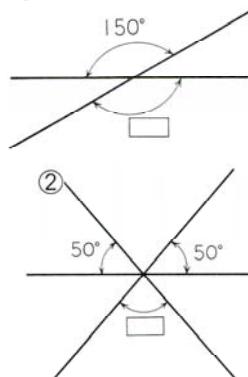
6年

「比例」「文字式」

比例の単元は、前回学習した「比」ととても関連があります。「比例」となると、中学校で学習する1次方程式($y = a \times x$)につながっていく“関係式”を意識した学習になっていきます。今まで小学校で勉強してきた「1あたり×いくつ分=全体量」の式が、この比例単元につながっているのです。新学習指導要領への移行で、新しく6年生で学習するようになった単元です。といっても、学習内容としては、今まで「□を使った式」などで触れている問題です。ただし、文字として使う量が2種類、つまりxとyを用いて問題を解いていきます。xとyの関係式をつくり、xとyのいどちらかに分かっている値を代入するという、「方程式」や「連立方程式」の世界に一步踏み出すのです。中学校数学へ、スムーズに入られるよう、文字を使った式に十分慣れておきましょう。



①



🦋🦋🦋 **頭の体操** 🦋🦋🦋

* 4年生以上は、必ず解けるはず！ **分度器を使わずに!!**

